

海外現地法人の動向（要旨）

海外現地法人四半期調査（平成 18 年 7-9 月期）

平成 18 年 12 月 26 日

調査統計部企業統計室

＜今回調査のポイント＞

●平成 19 年 1-3 月期の先行きDI

- ・ 売上高の現状判断は、欧州を除くすべての地域で悪化したが、先行きは、輸送機械及び化学の改善により、わずかな改善を見込む。引き続き2桁台の水準にあり、高い景況感を持続。
- ・ 設備投資額の現状判断は、欧州を除く地域で悪化し、先行きは、一般機械を除く業種及びすべての地域で悪化を見込む。引き続きすべての業種及びすべての地域でプラス水準にある。
- ・ 従業者数の現状判断は悪化したが、先行きはわずかな改善を見込む。中国は引き続き 2 桁台の水準。

●平成 18 年 7-9 月期の実績

- ・ 売上高は、4 期連続で1桁台の増加にとどまるも、伸び率は 2 期連続して回復した。輸送機械は原油価格の高騰の影響等から増勢が鈍化したが、化学及び電気機械等が伸びを高めた。ASEAN4 及び欧州は伸び率を高め、中国は輸送機械の伸びの鈍化等により、伸び率はやや低下したものの2桁台の増加を持続。北米は輸送機械が減少したことなどから低い伸び率となり、NIEs3 は減少を続けた。
- ・ 設備投資額は、2 期連続で大幅増となった。輸送機械が 2 期連続の大幅増となったほか、電気機械が2桁台の増加に転じ、化学も増勢を強めた。北米は大幅に伸び率を高め、NIEs3、中国及び欧州が増加に転じた。
- ・ 従業者数は、引き続き増加。中国を中心にアジアで増加。北米は引き続き減少。欧州は 2 期連続増加。

調査時点：平成 18 年 11 月中旬

＜参考＞ 海外経済

世界の景気は回復している。アメリカでは、景気は拡大テンポが緩やかになっている。中国では、景気は拡大が続いている。固定資産投資は、このところやや伸びが鈍化しているものの、高い伸びが続いている。台湾、シンガポールでは、外需を中心に景気は拡大している。マレーシアでは、内需を中心に景気は拡大している。タイでは、景気の拡大は緩やかになっている。韓国では、景気は緩やかに拡大している。ユーロ圏及び英国では、景気は回復している。（月例経済報告（平成 18 年 12 月）より）

1. 売上高

先行きDI*1 は 16.0%ポイントで、わずかな改善を見込む。実績は、前年同期比 7.0%増と伸び率はやや回復。

○現状判断D I（18 年 10-12 月）は 15.1%ポイントと、前期現状判断D I（18 年 7-9 月）に比べ悪化。すべての業種及びすべての地域でプラス水準ながらも、欧州を除くすべての地域で悪化。

先行きD I（19 年 1-3 月）はわずかな改善を見込む。電気機械及び鉄鋼は悪化を見込み 1 桁台の水準となったが、輸送機械及び化学は改善を見込み高水準。北米及び ASEAN4*2 で改善し、北米の改善が目立つ。NIEs3 を除くすべての地域で 2 桁台のプラス水準にあり、引き続き高い景況感を持続。

○実績（18 年 7-9 月）は前年同期比 7.0%と、伸び率は 4 期連続で 1 桁台にとどまるも、2 期連続して回復した。

業種別では、輸送機械は引き続き増加ながら伸び率が低下したものの、輸送機械を除くすべての業種で伸び率が上昇した。

地域別では、北米で伸び率が低下したが、アジア地域及び欧州は伸び率が上昇した。アジア地域では ASEAN4 の伸び率の上昇等から 3 期ぶりに 2 桁台の増加となった。ASEAN4 は、タイの自動車メーカーの大幅増などから輸送機械が伸びを高め、マレーシアの AV 機器等の増加から電気機械が増加に転じたことなどから、3 期連続 1 桁台の増加ながらも伸び率上昇。中国は、デジタル家電を中心とした価格の下落の影響等から電気機械は 3 期連続 1 桁台の増加にとどまり、輸送機械が引き続き大幅増も伸び率が低下したことなどから、引き続き 2 桁台の増加も伸びは鈍化。NIEs3 は台湾の輸送機械の不振などから 3 期連続の減少となったが、電気機械の伸びの高まりなどから、減少幅はやや縮小。北米は、映像機器等の好調から電気機械は伸びを高めたものの、輸送機械が減少に転じたことから低い伸び率となった。輸送機械の減少は、原油価格の高騰等から、北米の主力生産車種である大型車の売上が低迷したことなどが影響した。欧州は、輸送機械が減少し、電気機械が伸びを低下させたが、化学及び一般機械の増加から伸び率をやや高めた。

注 *1：調査時点を含む四半期（現状判断）及びその翌四半期（先行き）に関し、前期と比較した見通し
 ・DI＝「増加と回答した企業の割合」－「減少と回答した企業の割合」
 ・現状判断 DI の前期比＝「今回調査現状判断 DI（10-12 月期）」－「前回調査現状判断 DI（7-9 月期）」
 ・先行き DI の前期比＝「今回調査先行き DI（19 年 1-3 月期）」－「今回調査現状判断 DI（10-12 月期）」
 *2～4

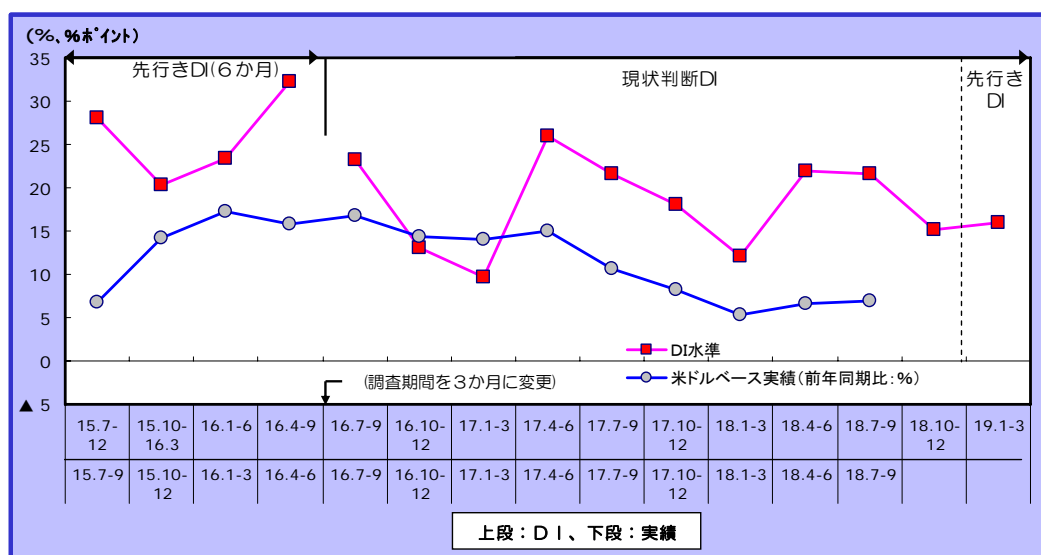
ASEAN4：インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア NIEs3：シンガポール、台湾、大韓民国 中国：香港を含む

1 表 売上高のD I 及び実績（地域・主要業種別）

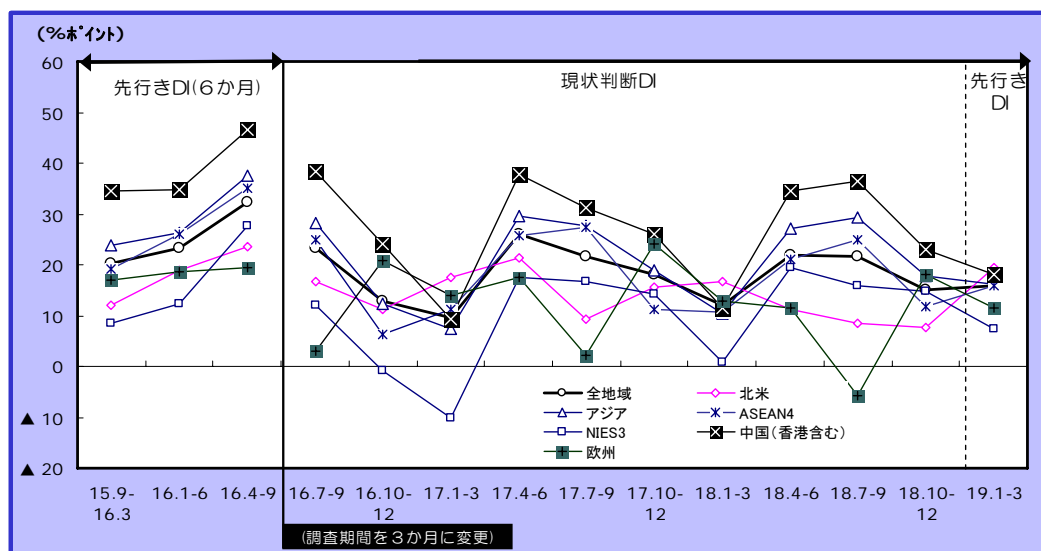
	DI					実績 (前年同期比)
	前期調査			前期比		
	①現状判断 (18.7-9)	②現状判断 (18.10-12)	③先行き (19.1-3)	現状判断 (②-①)	先行き (③-②)	
計（地域・業種）	21.6	→ 15.1	→ 16.0	(▲ 6.5)	0.9	7.0
北米	8.4	→ 7.7	→ 19.4	(▲ 0.7)	11.7	1.8
アジア	29.2	→ 17.7	→ 16.2	(▲ 11.5)	▲ 1.5	10.4
ASEAN4	24.8	→ 11.9	→ 15.9	(▲ 12.9)	4.0	8.9
NIEs3	15.9	→ 14.8	→ 7.3	(▲ 1.1)	▲ 7.5	▲ 0.5
中国（香港含む）	36.5	→ 22.9	→ 18.2	(▲ 13.6)	▲ 4.7	16.4
欧州	▲ 5.7	→ 18.0	→ 11.5	(23.7)	▲ 6.5	6.8

	DI					実績 (前年同期比)
	前期調査			前期比		
	①現状判断 (18.7-9)	②現状判断 (18.10-12)	③先行き (19.1-3)	現状判断 (②-①)	先行き (③-②)	
輸送機械	15.7	→ 19.9	→ 26.3	(4.2)	6.4	4.9
電気機械	19.1	→ 7.3	→ 4.0	(▲ 11.8)	▲ 3.3	6.7
一般機械	20.1	→ 25.2	→ 20.7	(5.1)	▲ 4.5	14.7
化学	24.6	→ 16.7	→ 25.6	(▲ 7.9)	8.9	8.8
鉄鋼	14.1	→ 8.4	→ 5.4	(▲ 5.7)	▲ 3.0	7.1

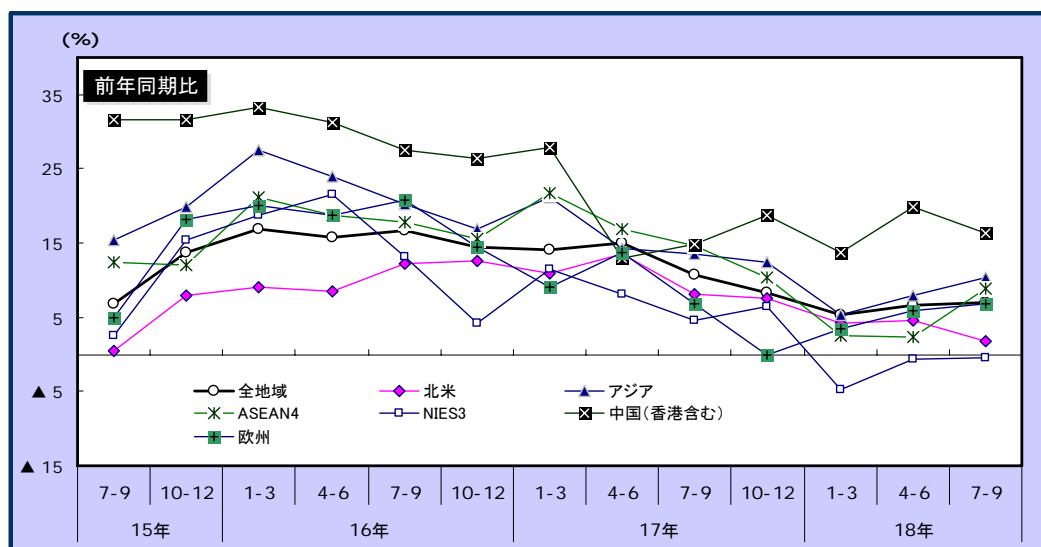
1 図 売上高のDI と実績（ドルベース）の推移



2 図 売上高DIの推移（地域別）



3 図 売上高実績（ドルベース）の推移（地域別）



2. 設備投資額(土地を除く有形固定資産取得額)

先行きDIは 9.2%ポイントで、先行き悪化を見込む。実績は、前年同期比 27.1%増と大幅に増加した。

○現状判断D I（18 年 10-12 月）は 13.0%ポイントと前期現状判断D I（18 年 7-9 月）に比べ悪化。鉄鋼を除く業種及び欧州を除く地域で悪化するも、ASEAN4 を除き 2 桁台のプラス水準。

先行きD I（19 年 1-3 月）は、一般機械を除く業種及びすべての地域で悪化を見込み、業種別では電気機械、地域では欧州の大幅な悪化が目立つ。北米及び中国を除く地域で 1 桁台の水準となり、全体でも 1 桁台の水準となった。

○実績（18 年 7-9 月）は、2 期連続で大幅に増加した。業種別では、輸送機械が 2 期連続で大幅に増加したほか、電気機械が 6 期ぶりに増加に転じ、化学が大幅に伸び率を高めた。

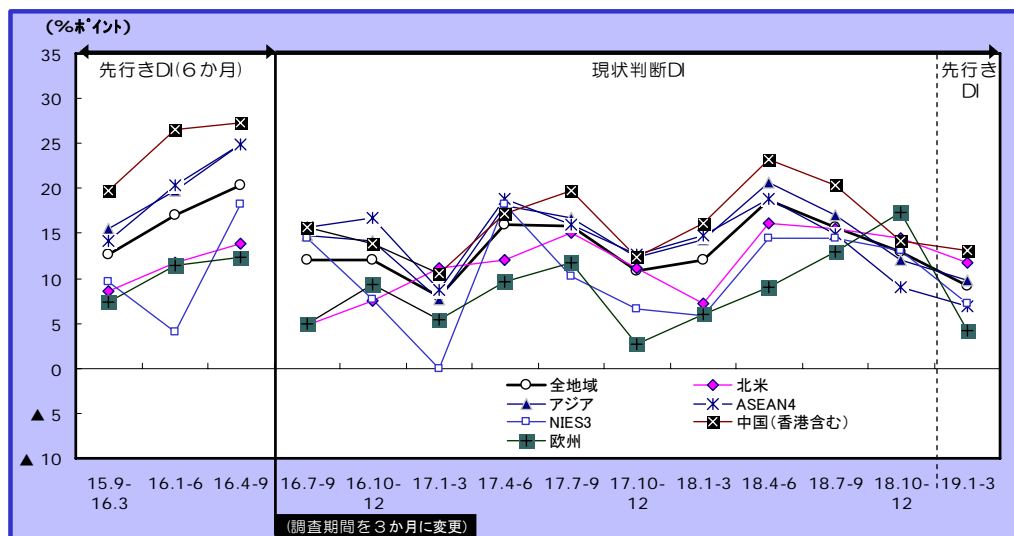
地域別では、北米及びアジア地域が伸び率を高め、欧州は大幅な増加に転じた。アジア地域では、ASEAN4 は 3 期連続 2 桁台の増加も伸び率は低下したが、NIEs3 及び中国で増加に転じたことから、伸びが上昇。NIEs3 は、輸送機械は引き続き減少したが、IT 関連の設備投資の増加等により化学及び電気機械が大幅に増加したことから、大幅な増加に転じた。中国は、輸送機械が引き続き倍増し、電気機械の減少幅縮小、化学の大幅増等から 3 期ぶりに 2 桁台の増加に転じた。ASEAN4 は、電気機械は大幅に増加したが、輸送機械がタイでの減少等により伸び率が大幅に低下したことなどから、3 期連続 2 桁増も伸び率は低下。北米は、輸送機械が大幅に増加したことにより、大幅に増加した。欧州は、化学及び液晶を中心とした映像機器等が増加した電気機械が引き続き大幅に増加し、一般機械及び輸送機械が増加に転じたことから、4 期ぶりに大幅な増加となった。

2 表 設備投資額の D I 及び実績（地域・主要業種別）

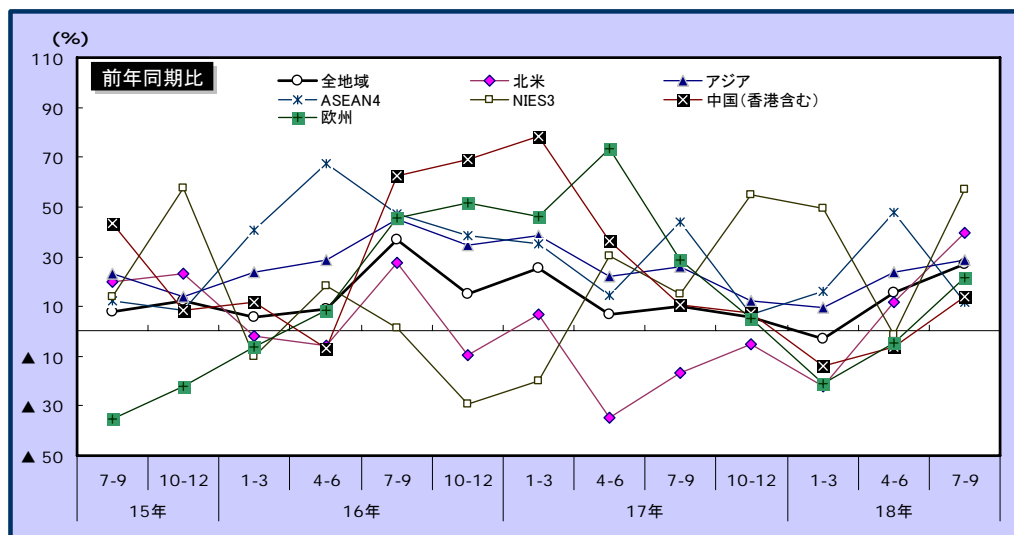
	DI						実績 (前年同期比)		
	前期調査			今 期 調 査				前期比	
	①現状判断 (18.7-9)	②現状判断 (18.10-12)	③先行き (19.1-3)	現状判断 (②-①)	先行き (③-②)				
計 (地域・業種)	15.7	→	13.0	→	9.2	(▲ 2.7)	▲ 3.8	27.1	
北米	15.5	→	14.4	→	11.8	(▲ 1.1)	▲ 2.6	39.4	
アジア	17.1	→	12.1	→	9.8	(▲ 5.0)	▲ 2.3	28.9	
ASEAN4	14.9	→	9.1	→	6.9	(▲ 5.8)	▲ 2.2	11.5	
NIEs3	14.4	→	13.1	→	7.2	(▲ 1.3)	▲ 5.9	57.1	
中国 (香港含む)	20.4	→	14.2	→	13.1	(▲ 6.2)	▲ 1.1	14.1	
欧州	12.9	→	17.3	→	4.2	(4.4)	▲ 13.1	21.4	

	DI						実績 (前年同期比)		
	前期調査			今 期 調 査				前期比	
	①現状判断 (18.7-9)	②現状判断 (18.10-12)	③先行き (19.1-3)	現状判断 (②-①)	先行き (③-②)				
輸送機械	16.4	→	12.4	→	11.8	(▲ 4.0)	▲ 0.6	36.0	
電気機械	15.5	→	11.5	→	2.0	(▲ 4.0)	▲ 9.5	19.8	
一般機械	15.8	→	10.0	→	12.1	(▲ 5.8)	2.1	5.6	
化学	16.9	→	8.9	→	8.7	(▲ 8.0)	▲ 0.2	93.4	
鉄鋼	16.4	→	19.2	→	14.6	(2.8)	▲ 4.6	▲ 30.5	

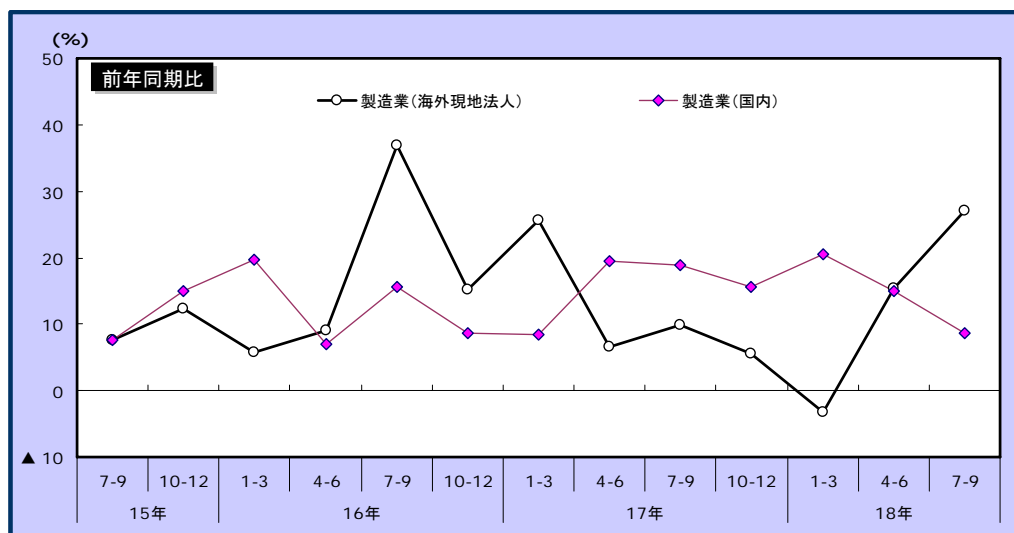
4 図 設備投資DIの推移（地域別）



5 図 設備投資額実績（ドルベース）の推移（地域別）



(参考) 日本及び海外現地法人の設備投資の推移



(注) 日本の設備投資額は、「法人企業統計」の有形固定資産新設額(建設仮勘定を含む)(円ベース)

3. 雇用(従業者数)

先行き DI は 5.7%ポイントで、前期比 0.1%ポイントのわずかな改善を見込み、引き続きプラス水準。実績は、前年同期比 4.3%増と引き続き増加。

○現状判断DI (18 年 10-12 月) は 5.6%ポイントで、前期現状判断DI (18 年 7-9 月) に比べ悪化。鉄鋼を除く業種及び欧州を除く地域で悪化した。

先行きDI (19 年 1-3 月) は、わずかな改善を見込む。前期に続き、輸送機械を除く業種及び中国を除く地域で 1 桁台のプラス水準。中国は悪化を見込むも、2 桁台の水準を維持。

○実績 (18 年 7-9 月) は、引き続き増加した。すべての業種及び北米を除く地域で増加した。アジア地域は、増加を続けているが、伸び率はやや低下。中国は引き続き増加も、輸送機械、電気機械及び一般機械の伸び率の低下などから伸びが鈍化。北米は引き続き減少。欧州は 2 期連続増加。

3 表 従業者数の DI 及び実績 (地域・主要業種別)

	DI					実績 (前年同期比)		
	前期調査		今 期 調 査		前期比			
	①現状判断 (18.7-9)	②現状判断 (18.10-12)	③先行き (19.1-3)	現状判断 (②-①)			先行き (③-②)	
計 (地域・業種)	10.3	→	5.6	→	5.7	(▲ 4.7)	0.1	4.3
北米	8.5	→	5.6	→	7.0	(▲ 2.9)	1.4	▲ 1.9
アジア	13.4	→	6.8	→	6.5	(▲ 6.6)	▲ 0.3	5.4
ASEAN4	9.9	→	3.3	→	3.5	(▲ 6.6)	0.2	2.8
NIEs3	6.2	→	0.8	→	0.8	(▲ 5.4)	0.0	2.9
中国 (香港含む)	19.3	→	12.4	→	10.4	(▲ 6.9)	▲ 2.0	6.9
欧州	▲ 3.9	→	1.1	→	0.0	(5.0)	▲ 1.1	1.8

	DI					実績 (前年同期比)		
	前期調査		今 期 調 査		前期比			
	①現状判断 (18.7-9)	②現状判断 (18.10-12)	③先行き (19.1-3)	現状判断 (②-①)			先行き (③-②)	
輸送機械	12.4	→	10.1	→	10.1	(▲ 2.3)	0.0	7.4
電気機械	8.2	→	3.2	→	3.2	(▲ 5.0)	0.0	4.3
一般機械	13.4	→	8.9	→	7.1	(▲ 4.5)	▲ 1.8	4.6
化学	11.6	→	3.1	→	6.3	(▲ 8.5)	3.2	3.4
鉄鋼	0.0	→	3.4	→	7.7	(3.4)	4.3	3.4